レッスン：SPA　N0.59

テーマ：質疑応答

SPA 59・KE9/F7/99

私の姉妹・兄弟たち、スピリット、光、火の子供たちよ。私たちは常に主、絶対、主の聖性に包まれています。

レッスン　SPA･59　エクササイズ　１

目を閉じて座り、心を騒がせるもの全てを解き放ちます…あなたは純白に包まれています…そして自分の境界を感じています…そして真っ白な五芒星のなかで守られています…あなたは今自分がどこにいるかを完全に気づいています…自分の部屋の中、現在のパーソナリティーの部屋にいることを完全に気づいています。あなたの周りにはこの部屋の壁があります…この部屋は今ホワイトブルー（水色）の輝きで完全にカバーされているのが見えます、それはあなたが知っている輝きであり、通常その色は現在のパーソナリティーが周囲をはっきりと見る妨げとなっています、言い換えれば、視覚を制限しています…しかし、今回はその輝きを通して見ることができ、部屋の四つの壁からそれぞれの色の光が来るのが見えます…正面からは純白の輝き、右からは赤の輝き、後ろの壁からは水色の輝き、左からはウルトラ・バイオレットの輝き…四つの輝きです…今それらの輝きはあなたが立っている地点、部屋の真ん中に向けて放射されており、各輝きは三角形の形で放射されています。それらの輝きが混じり合うことはなく、三角形の形であなたに向けて放射されています。部屋の床は四つの三角形の底辺となっており、その三角形の厚さは部屋の高さに達しています…四つの傾いた三角形の各頂点はあなたの両足の間にあり、少しあなたの背骨に触れており、それらの頂点は天上に達しています。

それら四つの三角形の輝きはあなたの肉体、およびあなたの現在のパーソナリティーの諸体に入ります。正面の壁からの三角形の純白のバイブレーションは、あなた自身の色であれ五芒星の純白であれそれらの白のバイブレーションとは異なっています。他の三つの輝きにも同じことが言えます…この部屋でこれらの輝きに包まれていて、あなたはとても気持ちよく感じています。

それでは小さな四面ピラミッドをそこに作ります…あなたは今その四面ピラミッドのなかに立っています…今、部屋の壁のかわりに四面ピラミッドの四つの壁から同じ輝きが放射されているのを見ます…色は全く同じですが、バイブレーションは違っています…つまり、現象的には同じでも、それらの色の周波数は部屋の壁からの光とは異なっています…それらの光は、部屋の壁からの光と同じようにあなたの諸体に浸透していきます…今この小さなピラミッドの中にいて、あなたのフィーリングは前とは違っています…今あなたは現れの限界について前よりもっと気づいています…この小さな四面ピラミッドのなかにいるにも関わらず、もし望めばピラミッドの外側にある部屋にフォーカスし、部屋のなかを見ることができます…あなたには自由意志があり、そうすることができます。

それでは四面ピラミッドのなかに三面ピラミッドを作ります…今あなたは三面ピラミッドの中にいます…あなたの正面で二つのサイド（面）が一つの角を作り、三つの目のサイドが後ろにあります。あなたの右側のサイドからあなたに向かってホワイトピンクの光が放射されています…左側のサイドからは水色の光があなたに向けて放射されています…そして後ろからは金色の光が放射されています…そしてこの三面ピラミッドの底面として三角形が形成され、三面ピラミッドの内側の空間は、四面ピラミッドおよび部屋と同じように三つの光で満たされています…さて今、あなたは前とは異なるフィーリング、気分を感じています…今あなたは前には現れなかったある特定の能力があることに気づいています…なぜなら、この三面ピラミッドは現在のパーソナリティーの素質的可能性の二番目のサイクルをマスターしたことを意味するからです…それは何であれこのサイクルの素質的可能性が現在のパーソナリティーに提供するものであり、それによってそのパーソナリティーは素質的可能性の三番目のサイクルに入ることになるのです…

この三面ピラミッドのなかにいる間、あなたには四面ピラミッドの中、部屋のなかを見る自由意志があります…それでは五面ピラミッドを作ります…前と同じ位置に立っていますが、今あなたは五面ピラミッドのなかにいます…五面の全てのサイドから同じ光があなたに向かって放射されています…それは純白と銀色がミックスされた色で、その光はあなたが底面から頂点へと移動するにつれて輝きが増してきます。

この五面ピラミッドのなかにいると、あなたが現在現れのために使用している手段は、あなたが本来使用すべき手段ではないことがわかります…あなたが使っている手段とは五感です…そしてこのピラミッドのなかで、現在のパーソナリティーの真の感覚をもっと意識的に現す能力を持つようになり、それはいわゆる五つの超感覚です…この五面ピラミッドのなかにいても、あなたは自由に他の二つのピラミッドおよび部屋にフォーカスすることができます…

あなたの現在のパーソナリティー全体の健康を祈ります…主の愛、主のアガピでもって同胞の人間達を抱きしめることのできる能力が与えられるように祈ります…そしてアガピ、最愛のお方の祝福があなたに、あなたの愛する人々に、そしてあなたの家庭、全世界に与えられるよう祈ります…

私たちは常に主、絶対、主の聖性に抱かれています。終わります。

質問：死という現象が生じる時、そのパーソナリティーは自分が物質界から去りつつあることに気づいていません。なぜなら、自分が知っている全ての人々を自分と一緒に連れていくからです。自分が実際にそこに生きている、とどうして知ることができるのでしょうか？

Ｋ：良い質問です、しかし今あなたは苦しみの体験をしています；他の世界、つまりサイコノエティカルな世界では、パーソナリティーは周囲の環境を作り、またその中で全てを作り出すことができます。それゆえ、決して苦しみ、痛みをもたらすようなものを作り出すことはありません。現世では苦しみを体験することがまったくないという人はいないと思います。あなたは眠り、夢のステート（＊状態）に入りますが、夢のなかでもあなたは毎日の生活の結果を体験します。あなたの夢の全てが素晴らしい夢というわけではありません。

ですから、夢を見ている時でも毎日の生活の影響を受けます。しかし、人は死ぬと、つまり肉体の死という現象の後は、人は決して苦しみを体験することはありません。なぜなら、人は自分自身のパラダイス（天国）を作り出すからです；勿論、ある人の天国は別の人にとっては苦しみかもしれません。現世においてさえ、ある人にとって楽しいことが別の人にとっても楽しいわけではありません。サイコノエティカル界では、背後に残してきた愛する人々の同一体を作り出し、さらには会ったこともない人々を沢山作り出して自分自身の環境を作ることができます。例えば私達が知らない都市に引っ越すと、見知らぬたくさんの人々を目にしますが、同じように死んだ人は無数の人間を作り出すことができ、まだこの物質界に生きているという印象を抱いています。もはやこの物質界の法則の下にはいないことに気づかないのです。向こうの世界では、パーソナリティーは完全に五つの超感覚を使用しますが、パーソナリティーはそれに気づきません。そして同じ事が現在のパーソナリティーが夢を見ている時に生じます。それゆえに、夢のなかでは出来事が論理的につながっておらず、意識は自動的に別なものへとジャンプします。

勿論、真理の探究者がより高い気づきのレベルへと進むと、自分の夢をコントロールすることができるようになり、最終的には夢のなかでも出来事を継続させることが可能となります。例えば、今晩あなたは夢のなかで何かを見、体験し楽しみます。次の晩、あなたはその夢の続きをみることができます。なぜなら、あなたには作り出す能力があるからです。自分が望むように出来事の動きをコントロールする能力があり、また意識が意識的に働くことができるのです。

質問：それがコントロールなのですか？

Ｋ：勿論です、でも夢のなかですが。さて、もし肉体の死という現象によって人が向こうのバイブレーションの世界にいくと、その人はその変化に気づくことができません。

もしパーソナリティーが現在のパーソナリティーの諸体をマスターしているレベルの極近くまで成長するときはじめて、完全にその変化に気づいていることができます。言い換えれば、不定形の諸体をマスターするレベルに近づいていればです；つまり、パーソナリティーの現世のバイブレーションにおいても物質化、非物質化が可能であり；さらに現在のパーソナリティーがエクソマトシス（＊意識的幽体離脱）をすることができれば、ということです。

肉体は現世のバイブレーションのためにのみありますが、肉体は現在のパーソナリティーではありません；現在のパーソナリティーは思考・行動の仕方以外の何ものでもありません；そして思考はノエティカル体に根付いており、感情はサイキカル体に根付いています。現在のパーソナリティーの二つの体です。しかし、初めはこれらの体が制限された現れのなかにある時、それらの体は不定形であり、肉体のような形をしていません。努力の結果として、つまり現在のパーソナリティーが経験を積み、あるいは気づきのレベルに関するワークをすることによって、不定形の体はきちんとした形、肉体の形を帯びるようになります。それは実際、人間のイデアのフォーム、天上人のフォーム、それは諸宇宙、コスモスそれ自体のフォーム、創造のセルのフォーム、生命の木の形、フォームです。それは最大および最小のフォームです。もし私たちが不定形の諸体をこの形に再形成しなければ、私たちはサイコノエティカル体を肉体から切り離すことができず、エクソマトシスと呼ばれる現象を行うことができません。

エクソマトシスをしていると主張する人がいるのを聞いたことがあるかもしれません。しかし、それらの人々を観察すると、彼らは恐らく現在のパーソナリティーの自己実現に到達していないことがわかります。彼らは彼らの潜在意識のなかに飛びこんでいるのです。そして個人の潜在意識は汎宇宙的潜在意識のなかにあります；潜在意識のなかに飛び込むことによって、何であれそれより前に起きたことを体験することができます；しかし、その出来事の最中にそこに参加することはできません。潜在意識の海に記録されるその記録を目撃することはできます。そのパーソナリティーは静止して生きています、さもないとサイコノエティカル体は肉体を離れることをしません。真のエクソマトシスとは肉体を眠らせてサイコノエティカル体を使用するのです。

質問：エクソマトシスの最中、恐らくそのパーソナリティーは痛みのバイブレーションに引っ張られるのですか…

Ｋ：それは不可視のヘルパーがしなければならない仕事によります。もし上から何かを目撃しているとすれば、その環境すらも超意識的にみることができるでしょう。しかし主として、人々の苦しみ・痛みを軽減するためにやるべき仕事へと引っ張られるのです。

不可視のヘルパーたちは地球上の人々の苦しみを軽減するために働きます。しかし、結果は原因・結果の法則次第です。何であれ諸宇宙において起きることは、その背後に原因があります。原因に影響を与えてその結果にどれほど働きかけることができるかは、全く別問題です。なぜなら、原因はそのパーソナリティーが以前に行った何かの結果だからです。

Page4

質問：もし人が同時に複数のヒーラーからヒーリングを受けるなら、それはより良い結果になるでしょうか？

Ｋ：説明しましょう…生じているのはとてもシンプルなことです。前に何回もお話ししたことですが、ヒーリングが生じている時、実際にはそのヒーリングを行っているのは名前のついている現在のパーソナリティーではありません。ヒーリングを行っているのは生の海(ocean of Life)です。つまりヒーリングをしているのは主なのです。もし誰かがヒーリングをしているのは自分であると主張するなら、その人は霊的なヒーリングをしていないことがわかるでしょう。霊的な（スピリチュアルな）ヒーラーは自分がそれをしているとは決して言わないでしょう。ヒーリングを行うのは内なるロゴスであり、ロゴスは全ての人の内側に存在します。別のヒーラーからも助けを求める必要はありません。なぜなら、その別のヒーラーでさえも行っていることは生の海の一部として行っているからです。ですから、一人のヒーラーが主に同調し、主がヒーリングを行っている時、それ以上別の人に助けを求める必要はありません。なぜなら、あらゆる助けはそこにあるからです。それは原因・結果の法則次第です。

例えば、ある人が「私はあるヒーラーのところに行ったけどなんの結果も得られなかった。後に別のヒーラーを訪ねたら良い結果が得られたので、最初の人よりも二番目のヒーラーの方が優れたヒーラーに違いない」と言うかもしれません。しかし、そのように判断することはできません。それは偶然に過ぎないのです。実際必要だったのは、その瞬間がくるのを助けたその特定の現在のパーソナリティーの確信です。現在のパーソナリティーが結果を得る準備ができていれば、そこには常にヒーリングがあります。

ですから、完全なヒーリングが生じるための切り札は、ヒーリングを受ける現在のパーソナリティーの手中にあり、それは常に原因・結果の法則と関係しています。しかし、多くのレッスンで説明したように、パーソナリティーには現れの周波数を変える自由意志があります。現れと受容、伝導と受容；そしてもし私たちがその周波数を変えれば、以前の伝導から影響を受けなくなります。つまり、原因としての現在のパーソナリティーがその結果に縛られるようなエレメンタルの創造、それから影響を受けなくなります。ですから、私たちは現れの周波数を変えることによって、いわゆるカルマを避けることができるのです；言い換えれば、気づきを高めることによって、思考・行動の仕方を高めることによってです。

質問：それでは苦しんでいるそのパーソナリティーは誰からも助けを求めずに、ただストイックにキリスト・ロゴスに祈り、聖なる慈悲によるヒーリングが生じるのをただ待つのですか？

Ｋ：それはある程度助けになりますが、十分ではありません。その理由は、肉体は原因を焼く、あるいは原因の結果を焼く必要があるからです。ロゴスは全ての人のなかにあり、絶対的な愛で全ての人を抱きしめます。しかし、実際それはロゴスによるのではありません。ロゴスは決して人の個人性、自由意志に介入することはしません。なぜなら、もしそうであったなら、私たちは限界ある現れであるこの世界に来なかったでしょう。

質問：それでは従来の医学、あるいは代替療法で病気が治った場合、その重荷は誰が背負うのですか？

Ｋ：経験、それは経験それ自体です。患者はある経験をします。痛み、恐れを経験します。その人だけでなく、その人の周囲の人々も時には多くの苦しみを体験します。そのようにして重荷は焼かれるのです。それゆえに肉体を持って現世にいる不可視のヘルパーはサイコノエティカル体だけを持っている不可視のヘルパーよりも、人間の苦しみをより多く取り除くことができる、としばしば言われるのです。なぜなら、結果はサイコノエティカル界ではなくて、現世で生じているからです。

助けを求めた瞬間、助けはそこにあります。しかし、その特定の助けからパーソナリティーがいかにして結果を受け入れるかは別問題です。私たちは原因・結果の法則の下にあります。そうです、あなたが助けを求めた瞬間、助けはそこにあります。それは確かです。さて、あなたがその助けをいかにして享受するかどうか、は別問題です。この諸宇宙のなかでは、どこにいようとも助けを求めた瞬間に助けはそこにあるのですが、結果はそのパーソナリティーおよび原因・結果の法則とどのように結びついているかに関係します。

Page5

結局、ヒーラーが患者の苦しみを背負うと言うとき、過去に説明したように、ヒーラーが背負う苦しみ、痛みの量、その割合は病気、痛みの百分の一です。そしてヒーラーはそれを簡単に焼き尽くすことができます。まず、ヒーラーは十分の一を背負い、十分の九は聖なる慈悲、主が背負います。なぜなら、あらゆる人のために大きな十字架を背負うのは主だからです。そしてヒーラーが十分の一を背負うとき、再び主の慈悲はヒーラーから十分の一の十分の九を取り除きます。ですから、百分の一がヒーラーに残るのですが、それは実際無いのと同じです。それらのパーセンテージはただそうなっているのです、それは創造の法則のなかにあります。全てはそこにあり、全ては素質的可能性のサイクルの中にあります。あらゆる可能性はそこにあります。１＋１＝２ですが、それは何故かと言えば可能性の法則、不動の法則のなかにあるからです。アインシュタインはそのような結果に到達しました。アインシュタインはリアリティー、真理をそれ以上明らかにすることのないように、それ以上の研究を拒否したのです。私はそれらのリアリティーを明らかにすることによって人間により以上のパワーを与えることはしません。しかし、重要なのはその知識ではなく、むしろ人が様々なアークエンジェルのオーダーと協力して働ける能力にいかにして到達するか、そして人間の真の本質、つまり生それ自体をいかにして表現するか、です。

同胞の人間達を抱きしめる唯一の安全で確実な方法は、自分自身へのワークをすること、気づきの上昇にむけてワークをすることであり、それ以外の何ものでもありません。そうすることによって、それは現在のパーソナリティーの不定形の諸体の再形成に向かうのです。私たちは今、実存の世界にいる現在のパーソナリティーについて話しています。創造界の下の三つのヘブンについて話しています。

現在のパーソナリティーは経験を与え、受け取ります。そして私たちが特定の両親、特定の国、環境に生まれるのは偶然ではありません。それは永遠のパーソナリティーが私たち自身の魂のセルフ・エピグノシスとの関係によって、そして原因・結果の法則のマスターの監督下でそれらを選択するのです。それに関係する複雑な仕組みを理解するのは簡単ではありません。時には、パーソナリティーは経験を与えるという唯一の目的のために生まれてくることもあります。

結局、痛み、苦しみとは何でしょうか？それは解釈です。私に苦しみを与えるものが、別の人には喜びをもたらすかもしれません。それは意味なのです。気づきを高めることによって、意味は消えていき、人間が自己実現に到達すると、意味の創造を通じてコミュニケーションが行われることはありません。五つの超感覚を通じてコミュニケーションが行われることすらなくなり、同調を通じて交流するのです。コミュニケートするためにエレメンタルを作り出すことはせず、誰かと同調し、同時に多数の人々と同調します。そして空間とも、そして惑星とも同調することができるのです。

ですから、意味を作り出すことを除去する必要があります。無知にいる時、現在のパーソナリティーは思考という活動の結果として無数のエレメンタルを生み出します。思考は唯一無知のためにのみあります。生は考えません、生は聖なる黙想を表現し、生は黙想し、生は神の意志であるブレーシスを現します。

多くの人々は人生のごく終わりに近づくと、苦しいと言います。多くの苦しみを経験しているような印象を与えますが、いいですか、実際には苦しんでいないのです。パーソナリティーが肉体から去るときには、聖なる慈悲によってパーソナリティーは静寂のステートに入ります；その人は多くを現すかもしれませんが、実際にはそのようなことを感じていません。

例えば、人々が非常に高いビルから落ちる時、彼らは地上に落ちた瞬間にその衝撃を全く感じません。なぜなら、彼らは肉体のなかにいないからです。痛みはその後に来るでしょう。しかし、その瞬間には何も感じません。衝撃を感じることはありません。

質問：それでは、いつフィーリング、感じが来るのですか？

Ｋ：その後です。地上に着くと、再び肉体に戻ります。なぜなら、サイコノエティカル体と肉体の慣性は異なっているからです。肉体は意識よりもずっと速く落下します。なぜなら、サイコノエティカル体の重さはずっと軽く、肉体と同じような速さで落下することはないのです。ここにいる人全員が車または飛行機のなかでエアポケットを体験していると思います。これが生じている時、あなた方は何かがあなたから、胃から出て行くのを感じます。それはなぜかと言えば、あなた自身は肉体の重さに従わないからです。なぜなら、あなたは肉体ではないからです。現在のパーソナリティーであるあなたはサイコノエティカル体であり、サイコノエティカル体の重さは本当に極僅かです。科学的にもサイコノエティカル体の重さを量ることに成功しています。

Page6

何十年か前に、死が間近に迫っているベッドに横たわっている人を、ベッドごと非常に敏感な計りに乗せて実験した結果、肉体における生の現れが停止したその瞬間、肉体の重さが軽くなったという結果が出ています。**ところで、サイコノエティカル体の重さは全ての人間において同じです。**彼らは多くの人々をテストしたのですが同じでした。しかし動物を対象に同じテストをしたのですが、動物の場合はそれぞれ違っていたのです。サイコノエティカル体は肉体のみならず、マインドの非常に精妙なバイブレーションでできていますが、しかし物質界においてはそれは物質なのです。現在のパーソナリティーは実存の諸世界におり、実存するものは全て何であれマインドの低次のバイブレーションから出来ています、サブスタンスをも含めて。スーパーサブスタンスには重さはありません。そしてそれは実存のステートではそれを形のなかに制限することはできません。スーパーサブスタンスのなかではフォーム、形というイデアがあります。

質問：痛みに戻りますが、薬はどの体に効果をもたらすのですか？

Ｋ：薬は不定形の身体のダブルエーテリックに働きかけます。もし薬が肉体に効果をもたらすためには、肉体のダブルエーテリックに働きかけます。もしサイコノエティカル体に関して、サイキカル体あるいはノエティカル体に治癒をもたらすためには、サイキカル体あるいはノエティカル体のダブルエーテリックに働きかけます。そしてサイコノエティカルな病気のための薬もあります。

質問：「私たちは誰を知るのか」と言うことはできるでしょうか？

Ｋ：私たちには何もわかりません；そして多くのレッスンで述べたように、私たちに解っているのは三つの低い実存の世界における相対的リアリティーの様々なレベルだけです。過去において、パワー・能力を現すための唯一知られている方法、可能な方法は魔術でした。魔術ですらそれを不当に低く評価すべきではありませんが、現在の地球上の人類の一般的な気づきのレベルからすると、私たちは魔術の実践を避けるべきです。私たちは無条件の愛を現すことができ、それは気づきの上昇を通じてのみ得ることができ、私たちにはそれができると確信しています。なぜそれを今することができるのか？なぜなら、今私たちには物差しがあるからです。比較して前進する基準があるからです。それは天上人によって、人間のイデアによって、生それ自体のフォームによって提供されたのです。ですから私たちはそのように進むべきです。そうです、私たちは何も知りません、絶対的に何も知りません、知っていることは唯一私たちがここで触れていることだけです。

私たちは忍耐強く、真剣で責任ある探究者であるべきです…自分自身に対して、そして他人に対しても。そして決して他人に見せびらかすべきではありません；何を見せるのですか？私たちがどれほど無知であるかをですか？なぜなら、私たちは無知だからです…私たちは時にはそれを忘れてしまいますが…しかし、先はとてもとても長いのです！

EREVNA/SPA59/KE9/F7